

論 文

慢性期疾患をもつ高齢者の家族看護援助の実態

広川 由美子・松村 伴子・下家 三千代

不和 和世・丹保 まり子*

公立つるぎ病院 *鶴来町訪問看護ステーション

Actual Conditions of family nursing for chronic
ill elderly patients

Yumiko Hirokawa, Tomoko Matumura, Mitiyo Shimoka,
Kazuyo Fuwa and Mariko Tanbo*

Turugi General Hospital

*Turugi Visiting Nurse Station

要 旨

慢性期疾患をもつ高齢者の援助の実態を把握する目的で、看護婦に対し質問紙調査を行った。対象は、慢性期疾患患者が約80%を占める病棟に勤務していた看護婦とした。調査は、鈴木の家族看護方法の項目を、概念枠組みとして3つの大項目Ⅰ『個々の家族成員に働きかける援助』、Ⅱ『家族成員間の関係性に働きかける援助』、Ⅲ『家族と家族を取り巻く社会との関係性に働きかける援助』をあげ、それをもとに独自に34項目の質問を5件法で作成し、点数化した。結果、Ⅰの平均値が高く、援助がよく実施されていたと考えられる。また、34項目の質問の平均値の高い項目が、Ⅰの項目であり看護婦が患者に行っている具体的援助であったり、家族個人の健康上のことであり、援助や助言が出来ていたためと考えられる。また、平均値の低い項目は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの項目が含まれており家族成員に起こっている問題や事情、家族間の関係性や、社会との関係性にまでは、踏む機会が少なかったものと考えられる。

キーワード

慢性期疾患, 家族看護, 高齢者